

指摘事項リスト（補足説明資料へ反映箇所）

1 F 技術会合（第11回）
資料3-1

No.	実施回	指摘事項	回答	反映箇所	ページ番号	回答時期
1	第07回	(P.14 廃スラッジ回収設備の耐震クラス設定) ここを含めて数値が暫定値となっている部分がある。 この点は少し深掘りして今後確認する。	設計進捗によって変更の完成があったため、当日資料では暫定値としていた。 現時点でタンク容量等に変更が生じる可能性は低いと、確定版の数値にて提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
2	第07回	(P.17 【参考】公衆被ばく線量の算出方法（直接線およびスカイシャイン線による影響）） 設備内の最大貯留インベントリがどのように算出されたのか根拠を説明すること。 (P.29、P.30との関係も整理し、説明すること)	設備内の最大貯留インベントリについてどのように算出しているかを提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
3	第07回	(P.10 廃スラッジ回収設備設置に対する措置を講ずべき事項の該当項目) 8.記載のうち、保管容器の遮へい対策については今回説明がないと思う。 表面線量1mSv/h以下になるよう遮へいし、第四施設に保管可能なことについて説明すること。	保管容器の構造図、遮へい体の構造、線量評価結果、第四施設の格納条件について提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
4	第07回	(P.26 廃スラッジ回収設備の耐震クラス一覧) 屋外設備・配管トラフの基礎（漏えい拡大防止堰）の耐震クラスについて、Ss900の具体的評価の対象、方法をどうするのか今後の面談で明確にすること。	最終的な基礎構造を踏まえて、評価対象、評価方法について提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
5	第07回	換気空調系の耐震クラスについて、Cクラス設定とされているが、Bクラスとの取り合いの部分の考え方については、今回Bクラス相当の強度を持たせるという考えは示されたので、今後の審査面談の中で詳細な部分を確認し、必要に応じて技術会合で議論する。	Cクラスとする換気空調設備、Bクラスとする設備の取り合い箇所のうち、波及的影響が懸念される箇所についての強度評価について提示する	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
6	第07回	(P.15 廃スラッジ回収設備の耐震クラス設定について) 屋外設備・配管トラフの基礎（漏えい拡大防止堰）について、漏えい時の機動的対応がどのような体制で、どの程度の時間で、回収したものをどこに持って行くのか等を整理し、説明すること。	脱水前のスラッジを取扱うタンク内から全量が堰内へ漏えいした場合を仮定して、作業内容、被ばく線量について概略評価を行った結果を提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
7	第07回	(P.15 廃スラッジ回収設備の耐震クラス設定について) 「(ト)に定める液体放射性物質には該当しないと判断」という考えは規制庁と認識が異なる。 固・液体状の二層を扱うことを鑑みると、漏えい物質が広がることはほぼ自明であるので、機動的対応で解消することはしっかりと説明をすること。	脱水前のスラッジを取扱うタンク内から全量が堰内へ漏えいした場合を仮定して、作業内容、被ばく線量について概略評価を行った結果を提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
8	第07回	(P.24 換気空調設備の耐震クラスについて) 換気空調系の耐震クラス設定について、評価上厳しくなる条件が機能喪失パターンとして他にあると思う。もう少し詳細に様々なパターンを検討し、一番代表性がある（最も厳しいシナリオ）というものを説明すること。例えば、空調が制御不能になり換気空調系が回り続け、排出し続けるという事象も想定されるのではないか。	2023年3月27日 技術会合にて回答済み。	追而	追而	-
9	第07回	(P.24 換気空調設備の耐震クラスについて) ダスト飛散について、脱水したスラッジを保管容器に保管するときに最も厳しいとされているが、設備のメンテナンスの際の方が飛散状況として厳しいのではないかと思う。ダスト飛散についても、様々なパターンを検討し、最も厳しい事象を説明すること。	2023年3月27日 技術会合にて回答済み。	追而	追而	-
10	第07回	保管容器の保管場所について、一時保管施設への保管するメリット、いつまで一時保管をするのか（期限を決めて）、きちんとした保管庫を設置することも合わせて明確にし、説明すること。また、10棟の面談資料のように整理（大型保管庫に設置した場合のメリット、いつまで一時保管など）して欲しい。	廃スラッジを脱水して充填した保管容器の保管先として、高台に設置されている保管施設の状況を確認した上で、一時的に第四施設に保管するご妥当性を提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
11	第08回	(P.9 ダスト閉じ込め対策に関するご提示および使用施設等の位置、構造及び設備の基準に関する規則等に対する設計上の対応方針) 使用施設等の規則では逆流防止を設計要求としているが、換気空調系の系統設計に示されている各ダンパ（隔離ダンパ、逆止ダンパ、ポリウムダンパ）がどのような機能を持っているのか説明すること。	換気空調系統図を用いて、使用している逆止ダンパ、隔離ダンパ、ポリウムダンパの機能について提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
12	第08回	(P.18 廃スラッジ回収設備内のダスト閉じ込め方法) タンク等の動的機器の点検等のときは改めてエリア設定を行うのか。	万が一の動的機器の故障の際の対応方法について図等を用いて提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
13	第08回	(P.24 ダスト取扱エリアの閉じ込め対策について（廃スラッジ充填室）) 「ダスト取扱エリア-ダスト管理エリア」及び「ダスト管理エリア-通常エリア」の閉じ込め対策について、シャッター開閉のダンパの調整管理は、認可までに必ず確認する内容なので整理し、説明すること	シャッター開閉時の室内の圧力や気流バランスを維持するための具体的なダンパ操作や値を提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
14	第08回	(P.26 ダスト取扱エリアの閉じ込め対策について（廃スラッジ充填室）) ダスト管理エリアでは人が入り作業することも想定しているので、入室の際の判断根拠（ダストモニタだけで判断するのか、負圧がしっかり確保されていることなのか）を説明すること	容器検査室にて作業する際の入室方法および入室可能とする判断根拠について提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
15	第08回	(P.20 遠心分離機シュートの動作と閉じ込め対策) 遠心分離機シュート部の閉じ込め対策について、局所吸引ダクトを用いた排気は、設計上現実的に達成可能とすることを定量的に示すこと	遠心機下部の局所吸引ダクト、室内、廃スラッジ充填室のそれぞれの排気量などから局所吸引ダクトが最も負圧であることを提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
16	第08回	(P.31 換気空調設備の耐震クラス設定に関する検討ケースの妥当性（1/2）) 換気空調系の耐震クラス設定に関する検討ケースの妥当性について、ケース①（最も厳しいケース）はインターロック等で送排風機を停止するというのであれば、インターロックに関連する計器、電源系もBクラスにしなければならぬ。もし、インターロックに期待しなくても50µSv/事象を十分に達成できるのであればその根拠を説明すること インターロック等は具体的な設備構成も含め説明すること	万が一の外電喪失時の換気空調設備の想定される挙動とインターロックの状況、換気空調設備の停止方法について提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
17	第08回	(P.32 換気空調設備の耐震クラス設定に関する検討ケースの妥当性（2/2）) シュートを通して落とすときのダスト飛散と、遠心分離機に付着したスラッジを洗浄するときの瞬間的にダスト化し、飛散することはどちらが多いのか一概に言い切れないと思う。この点は相当な知見の収集や実験を行っていると思うので、実験データに基づき定量的に説明すること	設備運転中(脱水中や遠心分離機の洗浄中)に外電喪失した場合の設備とスラッジの挙動についてご提示する。	追而	追而	次回以降の技術会合にて提示
18	第08回	前回技術会合（3月27日）より3か月経つので現在の検討状況を説明すること。 また、前回技術会合（3月27日）資料で6月補正申請と説明されているので、この進捗状況を説明すること。	現在の設計進捗を踏まえて補正時期について提示する。	廃スラッジ回収設備の設計工程	P.105	第11回技術会合にて提示
19						
20						